

自然素材にこだわり

目指す家は、筑後平野北部、福岡県大刀洗町にあった。山吹色の自然塗料を塗った鉄肥杉外壁が、陽光に映えている。日南市鉄肥杉モデル住宅建設協議会（会長・青山元信）日南建築業協会（会長・肥5丁目）に建てたのと期を同じくして完成した、もう一つの鉄肥杉モデルハウス。完成見学会初日の2月23日には、日南地区林業研究グループの7人も視察した。坂本嘉平次会長は、自宅を兼ねて建てた大工家の鶴田亮棟梁（とうりょう）に「これからは鉄肥杉でどんどん家を建ててほしい」と激励した。

大工家は、南那珂森林組合（島田俊光組合長）、住宅資材販売のサトウ産業（筑紫野市、佐藤広樹社長）、伸建築（同、長野善伸棟梁）で構成する、おび杉の家づくり協議

— 8 —

もう一つの家

地産地建の住まい

鉄肥杉モデル住宅誕生

会の一員。展示会は、県木材事業協同組合連合会のみやぎきスギの家づくり活用支援事業を使って開き、チラシ6万枚を新聞に入れてPRした。家は、鋼板の片流れ屋根に今風で簡素な外観の2階建て5LDK（延べ床面積1555平方メートル）。本体総工費は約2500万円で、木材は鉄肥杉を手刻み加工した。標準仕様の建築費は坪（3.3平方メートル）単価40万円程度にすることを話す。

吹き抜けがある居間には元口（根元に近い方の直径）70センチの太鼓梁（はり）を用い、建具も二重ガラスの窓枠も鉄肥杉製。木目の柔らかい部分を削り堅い部分を浮き出させた浮造りの床は、ぬれ色の塗装で耐久性を持たせ、木の赤みを強調した。暖色系の照明がしつこい壁に反射し、床板の表情を豊かにする。1階の

天井板は張らず、ボルトや金物をあえて見せ、デザインと建築費削減を両立させた。自身は乾燥肌、長男はアレルギー性鼻炎に悩み木（鉄肥

杉）や土（しっくい）、エゴマ油（塗料）と自然素材にこだわった。床も足踏み健康効果を期待したから。住んで体の不調が改善されれば、健康住宅として自信を持って勧められると話す。ひさしもぬれ縁も鉄肥杉。経年変化を観察し、鉄肥杉の特徴や用途を把握し

たいと壮大な実験を楽しむ。現在35歳。16歳で大工の道に進み間もなく20年を迎える。競争の激しい福岡で、大手の手間請け仕事に目もくれず鉄肥杉を相棒に独創的な家造りを目指す。「大手と同じ価格競争の土俵で勝負しようとは思わないし、手間請けはサラリーマンと変わらない。自分の売りを持たないと。楽しんで建てるものが形になり、施主が喜ぶ。大工は最高の仕事」と笑みをこぼす。



今風の外観で、鉄肥杉の外壁や軒を自然塗料で仕上げた鶴田棟梁の自宅兼モデルハウス

日南市の補助事業を使い、家づくり協議会は20日に1泊2日の日南バスツアーを実施、鉄肥杉の山や製材所などを福岡の見込み客に見せて回る。前回のツアーで、伸建築は複数の受注につながり経営が安定したという。南那珂森林組合第2事業部の奥村泉部長は「地元工務店の仕事が減り製材所経営も厳しくなるばかり。時間はかかるが鉄肥杉を使う工務店を育て、需要拡大に努めたい」と強調する。